

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.51 2010年1月10日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

「劇団 50 周年の集い」に 参加して思う——ビビッときた記

堤 次郎

新聞や川崎文化会議ニュースなどでも既報のように、10月3日の当日はエポック中原の会場に劇団関係者や県・市内の各界著名人など130人ほどが集い、散会ぎりぎりまで賑やかに「50周年」を祝いあいました。あらためて振り返ってみて、この「集い」は新聞やテレビなどがもう一歩踏み込んで県民・市民にもっと大きく報道してもいい“文化的”事件ではなかったかと思えます。

私個人にとってもこの「集い」は、十数年もの長い休団生活の間にこびりついた錆をいっきにはがしてもらえる貴重な機会となりました。要するに目から鱗ってやつですよ。

祝辞を述べた方はどなたもこれまでの劇団の奮闘振りに賛意と理解を、将来についても大きな期待の気持ちを込め熱弁を振るってくださいました。そして、まるで我が家の春を歌い上げるように喜びを表してくれました。まさに“50年の重み”ならではなせる業ってところではないですか。

ここで少々大声で内緒話をしますと、この時間帯に私は不思議な、夢を見るような体験をしました。若かった頃の劇団生活の様々な場面が眼の前に次々に現れて……。例えばノミだらけの借り稽古場(倉庫)とか、旧稽古場での団員総出でやったガリ版刷りの台本作り、大量の宣伝物を徹夜で刷った場面とか、ピラ配りや看

板張りで警官に追っかけられ逃げまくったこととか……。不遜にも瞬間居眠りをしてしまったんでしょうね。でも言い訳をするつもりはないんですが、どなたかの熱弁に刺激されてその結果がうつつと夢を往復し、しまいには妙な夢になったんじゃないかと思えます。

話を本題に戻しますと、何と言っても腹にズシとききたのは『コーカサスの白墨の輪』『金冠のイエス』など多数の作品を演出してくださった小田先生(高津区在住、小田健也氏、演出家)の劇団と地域演劇に寄せる熱いメッセージで、「もう一度一緒にいい舞台を創りたい」というプロポーズ(?)には思わずハッとさせられました。みなさんも同じ思いをされたのでは。

そして、胸にジーンと来たのがユーモアあふれる須田輪太郎氏(前ひとみ座代表)の乾杯の音頭の場面です。あれほど長い乾杯前の挨拶は聞いたこともない。笑わせっぱなしで飽きさせない。お人柄と話術と若い頃から地域文化発展の機関車の役割をしてこられた生き様が織りなす、えもいわれぬ業なんでしょうね。ホントにホントにあやかりたいものです。

ここでいきなり「集い」の最後を飾った劇団と「文化の仲間」の“合同公演”についても触れたいと思います。

何年かぶりに、安達さん、鈴木たか子さん、「文化の仲間」の方たちや松平さんなどと一緒に舞台を踏めたというだけで「最高！」感無量です。秋田漫才・腹話術・合唱・ピアノ・トランペットとくれば、どこでもできるようなことではありません。やりましょうや！

しまいには私事を一言。休むのも疲れました、劇団でボチボチ動き出したいと思ってます。(劇団員)



京浜協同劇団 50周年記念公演

太宰治の作品『赤い太鼓』・『貧の意地』

京浜協同劇団の50周年記念公演の最後を飾って、11月・12月に太宰治の作による『赤い太鼓』と『貧の意地』が上演されました。今回、久々に休団から復帰して出演した小嶋宏子さんと、観劇された音楽評論家の佐藤克明さんに感想を寄せていただきました。佐藤さんには、全国を飛び回るご多忙の中で、ご執筆いただきました。

23年ぶりの京浜協同劇団

小嶋 宏子

1979年3月、私は静岡県と県境、神奈川県山北町より電車を乗り継ぎ2時間かけて京浜協同劇団に来ていました。案内されて入った古い稽古場の正面には、プロの演出家である小田先生を中心に演出班が並び、すでに立ち稽古に入っていた舞台には赤旗を持った室ちゃんが厳しい顔で立っていました。それは“おふくろ”でした。そこにいる誰もが、キビキビと無駄のない動きで稽古に集中しており、いい舞台を創ろうとする思いは張りつめた糸のようで、咳をするのもしばかれるようなピリピリとしたものがありました。この稽古場全体を支配する緊張感と熱い思いが大学を卒業したばかりで世間知らずの私に圧倒的な勢いで迫り、私はこれまで経験したことのない衝撃を覚え、感動し、劇団に通うことを決めたのでした。それから7年間。ゼロの記録・どん底・持つということ等々の本公演を経て1986年のターミナルを最後に出産・引越しと長期休団になったのでした。

今回こうして再び公演に参加できたことは私自身嬉



しいことでしたし、また今後の励みにもなりました。セリフが覚えられるだろうか？ 口から出てくるだろうか？ だいたい小金井から通いきれるだろうか？ こんな不安や心配から始まった稽古でしたが、今は無事に終わってほっとしています。そして改めて、この劇団が多くの人に愛され、支えられていると実感できたことも幸せなことでした。“この日、この地で、この人々と”をスローガンに掲げて50年。劇団



員一人ひとりが劇団を支えてくれる人達と固く結びつき、“よって、たかって”知恵を出し合い、より良い文化創造運動（それはさつきまつりであったり、公害患者支援の運動でもあり、演劇まつりでもあり）をしようとして誠実に活動し続けてきた劇団のあり方に、多くの方々が共感し、力を貸してくださるということだろうと思うのです。

さて、女ばかり5人による“赤い太鼓”いかがでしたか？ 稽古に入る前は台本を持っての朗読劇のはずだった……のですが。本番はずいぶんと違ったものになりました。舞台は台本と空間と人で創られるので、その役者によって良くも悪しくもいかようにも変化します。初歩的で恥ずかしい話ですが、30分ほどの芝居でも私がセリフ忘れてつまづくとそれがやはり病

のように全員に伝染してしまい、演出を困らせました。これでは観客に何も伝わらないからです。“私達はどんな舞台を観客に届けるのか？ そのためにどうしたらよいのか？”全劇団員共通のこの明確な課題に私はきちんと向き合っただろうか。反省ばかりです。舞台づくりは楽しいけれど、けっして楽な作業ではないのだと再確認した公演でもありました。

最後になりましたが、連日裏方を引き受けてくださった文化の仲間の会の皆様、たいへんお疲れ様でした。私は初めてご一緒させていただきましたが、色々な面でご協力していただきましたこと、心よりお礼申し上げます。
(劇団員)



赤い太鼓

京浜協同劇団と 一緒に仕事したいな

佐藤 克明

『赤い太鼓』『貧の意地』は、それぞれ小品らしい味わいがあり、50年の歴史をも思わせて、楽しみました。この公演については、多くの方が書くことでしょうかから、わたしはかねがね考えていた、劇団が地域に長く存在する意味について書くことにします。

全国のどこの地域も、地域経済と自治体財政が疲弊し、「効率化」の名のもとに、文化施設も予算と職員が減らされ、住民の文化活動も厳しくなっています。ある県庁所在地の数十万市民のための文化会館は、自主文化事業予算がゼロとなって約10年です。南足柄



貧の意地

市文化会館は、来年度いっばいで閉館することになっていますが、すでに市民プールも駅前の図書館も閉鎖、中央公民館も閉鎖されるということです。

この10年ほどのわたしの仕事は、そうした各地の文化施設に出かけて、どうすれば職員と地域住民の創意ある活動をさかんに行えるか、職員と住民の協働を進めることができるか、というアドバイスをすることです。アドバイスのポイントは、文化・芸術が存在する意義を明らかにすることと、その推進力となるリーダーを職員や住民の中から見出し、育成することです。

文化・芸術は、一人ひとりの生活、人生を充実させ、生きる力になるとともに、人びとのコミュニケーションを盛んにし、地域コミュニティを支える力になります。その質や水準が高いものであれば、そこに参加する人は、自らの生活質を高めるとともに、より高度なコミュニケーションによって強く結ばれた仲間、コミュニティをもつことができます。(4頁に続く)



貧の意地



その地域に、そうした文化活動がさかんであれば、このところ各地の自治体が政策の上位に掲げている「安心・安全」も、子育ても、さらには、創造的な人が増えることによって、経済も、それによって支えることができるでしょう。

一つの劇団が、地域と広く深く、質高く関わってきた歴史は、そういう面からも評価され、検証されるべきではないでしょうか。

もちろん、人口の多くが短期間で移動する大都市では、コミュニティの形成と充実には難しい問題もあります。しかし、「対話の芸術」である演劇には、コミュニケーションを盛んにする力があります。多様な能力

をもった人が集まり成長する劇団には、大都市のどのような地域にでも入って行って、そこを元気にする力があります。

音楽にも、舞踊にも、演芸にも、それぞれの優れた力がありますが、いまの地域が求めるものはとくに演劇だと、わたしは実感しています。

今日もこれから山陰地方に出かけますが、できることなら、京浜協同劇団と一緒にそういう仕事をしたいな、と思っています。

(社)全国公立文化施設協会アドバイザー、音楽評論家。
中原区井田在住)

50周年躍進カンパのお願い

京浜協同劇団 城谷 護

劇団では今、稽古場の改修工事と設備を充実させる事業に取り組んでいます。創立50周年を節目として、稽古場をもっと多くの人に活用してもらいたいからです。

建設から15年経ち傷んでいる外壁の補修と塗装工事、二つしかなかった女子用のトイレを四つに増やしました。また、ひな壇形式の客席を組み立て式にして簡単にできるように改善、丸一日かかっていた作業が2時間程度で組み立てられるようになりました。このほか、平台の新規製作、机、椅子、音響、照明器具などの充実を図っています。

こうしたことにより、どなたにも使いやすいようになりました。

しかし、こうした事業には1300万円の資金が必要であり、広く皆さんにもご協力をお願いしたいのです。昨年の12月現在で、劇団員から約600万円、文化の仲間から約150万円、一般から90万円、合計840万円の資金カンパが寄せられています。

引き続き、今後一年半の予定で50周年躍進カンパ運動として続けていく予定ですのでご協力のほどお願い申し上げます。

京浜協同劇団のCDを聴いて

今後もずっと 聴き続けたい

東村 信明

まずは、パンフレットをさらっと見ただけで、通勤の行き帰りに、一気に聴いた。驚いた。「京浜で、こんなに凄かったっけ!？」その歌のインパクトの強さ。声のきれいさ。ハーモニーも悪くない（とくにDISC-2）。でも、一方で、「一体、これは何の歌!？」というのも、いくつかあった（とくにDISC-1）。それで、何日かたってから、今度はパンフレットを見ながら、じっくりと聴き直した。（2、3回聴いた曲も多い。）納得した。少し荒っぽい歌い方があったりしても、まさに、「その日、その時、その地で」生まれた歌に間違いないと確信した。DISC-1の曲は、ほとんど、今度初めて聴く曲ばかりだったが、その中で、面白い印象を持ったのが、「劇団稼業」の3曲だった。藤井さんの独演会は、歌詞がよく聴こえないのが残念だったが、会場の盛り上がりはよく伝わってくる。根倉さんのソロは、やや不器用ながら、ユーモアと愛情に、思わずホロリとなる。蒔村さん作詞の「子連れ女優のブルース」は、護柔さんの歌が、かつての岡林信康みたいで（そういえば、風貌も似ている？）とても味があった。さて、DISC-2だが、合唱もソロも、さらに良くなっている。だが、何と言っても、私にとっては「金冠のイエス」だった。改めて初演の日時を見ると、1976年。何と、私が30歳になったときだった！（当時は、全く意識はしていなかった。安達さんも、まだ36歳！）いささか手前味噌になるが、合唱も立派なものだった。あの楽譜を初めて見たとき音取りは難くなさそうだったが、どんな合唱になるのか、かなり戸惑いを感じた。それは、稽古が始まって変わらず、はたして、ちゃんとした合唱になるのだろうか、という不安は本番近くまで続いた。しかし、本番は違った。私が、それまで15年間、歌ったり、指揮したりしてきた合唱は、練習で練り上げてきたものを、本番でいかに全部出し切れるか、だったように思う。しかし、金冠では、本番で、役者さんたちの歌と演技に触発され、合唱が変わっていった。私も、それまでの不安に取って



50周年記念CD（2枚組・¥2500）好評発売中

代わって、面白さが広がっていった。公演ごとに、合唱がどんどん変わっていった。今、CDで聴いてみると、まるで、グランド・オペラのような重厚さで（ちょっと言いすぎか）山口さん、護柔さんたちの軽妙な歌と演技を、支え、浮き上がらせていた。私自身も、あの芝居以来、合唱に対する考え、というより、感覚（イメージ）が、ずいぶん変わっていったようだ。あれから30年。あの歌と芝居に出合ったことに、深く感謝している。そして、このCDは、今後もずっと聴き続けていきたいと思っている。

（合唱指揮者。元、東京放送合唱団）



明けておめでとうございます

小野寺 晃（文化の仲間・世話人）

◎文化の仲間通信◎

◆劇団民藝公演 巨匠

作 木下順二／演出 内山鶉／出演 大滝秀治・梅野
泰靖・内藤安彦・水谷貞雄 ほか

日程 2010年1月22日～2月9日

昼の部2時／夜の部7時開演

会場 俳優座劇場（六本木）

入場料 一般6300円 学生割引3150円

NIGHT TICKET 4000円

『夕鶴』『子午線の祀り』を経て、劇作家・木下順二
がく芸術家の運命>について劇団民藝に書き下ろした
衝撃の現代劇。1991年に滝沢修主演で初演。劇団民
藝60周年にあたって、新たに第4次公演！

申込み・問合せ 劇団民藝 TEL 044-987-7711

(月～土：10時～18時)

HP: <http://www.gekidanmingei.co.jp>

◆神奈川のうたごえ 60周年記念祭典

湧きあがれ 生きる喜び、うたごえよ 明日へ

日程 2010年1月31日 15:00開演

会場 神奈川県立青少年センター（桜木町・紅葉坂）

入場料 一般1500円 中高生・障がい者1000円

小学生500円

出演者 祭典記念合唱団・女声合唱・青少年のステー
ジ・高齢者のステージ・働く者のステージ・アコー
ディオン合奏・ぞうれっしゃ合唱団・郷土の太鼓と
踊り

1949年、「神奈川合唱団」の誕生とともに、神奈川
のうたごえの歴史は始まりました。以来、合唱を軸に
しながら、様々な音楽活動をしてきました。運動は山、
谷を経験しましたが、常に働く人々の連携、人々とつ
ながってうたう喜び、生きる喜びを求めてきました。

問合せ 神奈川のうたごえ60周年記念祭典実行委員会

TEL 045-212-2447 FAX 045-681-2202

◆川崎市民劇場 第294回例会

テアトル・エコー公演 エリック&ノーマン

作 マイケル・クーニー／演出 平野智子／出演 落
合弘治・溝口敦・熊倉一雄・南風佳子 ほか

日程 2010年2月14日～20日

会場 多摩・宮前の各市民館とエポック中原・サンピ
アンかわさき（労働会館）

「おしどり夫婦」の夫には秘密が……。2年前に失業。
七転八倒の爆笑大喜劇。

問合せ 川崎事務所 044-244-7481

溝の口事務所 044-855-5916

◆東京芸術座 創立50周年企画

記念公演 No.94 蟹工船

原作 小林多喜二／脚色 大垣肇／演出 印南真人・
川池丈司（客員）

日程 2010年3月26日～30日

昼 14:00／夜 18:30 開演

会場 東京芸術座（中ホール）（池袋駅西口）

入場料 一般5000円 大学・専門学生3000円

中高生2500円 障害者割引3000円

チケット前売開始2010年2月4日10:00

問合せ 東京芸術座

TEL 03-3997-4341 FAX 03-3904-0151

●文化の仲間事務局からのお知らせ●

次期総会の開催時期について

第12回総会を昨年1月に開催してから1年になり
ますが、昨年の1月開催は劇団創立50周年記念企画
に協力するため開催時期をずらしたものです。次期総
会は秋開催に戻し、今秋開催します。総会の間隔があ
きますが、ご了承ください。

なお、会計年度は、1月から1年間ですので、会費
の納入をお願いします。

劇団の稽古場改修カンパにもご協力をお願いします。
ご協力いただく場合は、振替用紙にその旨ご記入の上、
年会費と一緒にご送金ください。

■文化の仲間ギャラリー■

竹間テル子⑦

